



福島医大ふくしま子ども・  
女性医療支援センター特任教授  
(岩手医科大学医学部教授)

福島 明宗氏

一人の女性が一生のうちに出産する子どもの平均数を示す「合計特殊出生率」は、二〇〇五年の一・二六から一四年には一・四二とほぼ十年前のレベルにまで戻りました。その理由の一つに三十歳以上の女性の出産数の増加があります。

上の妊婦さんは22・7% (一五年) を占めています。今や高年齢出産は当たり前になっていきますが、同時にダウン症などの重要な臓器の構造などを詳しく診ることができ、出生前診断として幅広い役割を担っています。

母体の血液から胎児の染色体疾患の可能性を推定する方法に母体血清マーカー検査、母体血胎児染色体検査(NIPT)があります。特にNIPTでは①三十五歳以上の妊婦が対象②ダウン症を含めた三つの染色体疾患が対象③検査陰性の信頼度は高いが、陽性では羊水検査などの確定検査が必要④検査を受ける際には遺伝カウンセリングが必須—などの留意点があります。事前にホームページ (<http://www.fmu.ac.jp/boyoin/new/pdf/nipit-hp.pdf>) ならぬ「遺伝カウンセリング」が必須です。

# カウンセリング必須

日本における初産平均年齢は一五年では三〇・七歳、三十歳以上の妊婦さんは全体の59%(一五年)、さらに三十五歳以上(一五年)は全体の59%(一五年)です。

定する方法に母体血清マーカー検査、母体血胎児染色体検査(NIPT)があります。特にNIPTでは①三十五歳以上の妊婦が対象②ダウン症を含めた三つの染色体疾患が対象③検査陰性の信頼度は高いが、陽性では羊水検査などの確定検査が必要④検査を受ける際には遺伝カウンセリングが必須—などの留意点があります。事前にホームページ (<http://www.fmu.ac.jp/boyoin/new/pdf/nipit-hp.pdf>) ならぬ「遺伝カウンセリング」が必須です。

「遺伝カウンセリング」とは遺伝の専門家が正しい遺伝医学の知識に基づいて、相談者とともにその時点で最善の方策を模索していく医療行為です。当院でも「遺伝カウンセリング」外来を開設しています。ご心配の点があればまず「遺伝カウンセリング」を受けられることをお勧めします。

胎児の先天性の病気の有無を調べるのが「出生前診断」です【表】。超音波検査は胎児、母体への負担がなく(非侵襲)

度が高いが、陽性では羊水検査などの確定検査が必要④検査を受ける際には遺伝カウンセリングが必須—などの留意点があります。事前にホームページ (<http://www.fmu.ac.jp/boyoin/new/pdf/nipit-hp.pdf>) ならぬ「遺伝カウンセリング」が必須です。

非確定的(非侵襲性)検査
<ul style="list-style-type: none"> <li>・超音波検査</li> <li>・母体血清マーカー検査</li> <li>・NIPT</li> </ul>
確定(侵襲的)検査
<ul style="list-style-type: none"> <li>・羊水検査</li> <li>・絨毛検査</li> </ul>

## 出生前診断

出生前に行われる検査

度が高いが、陽性では羊水検査などの確定検査が必要④検査を受ける際には遺伝カウンセリングが必須—などの留意点があります。事前にホームページ (<http://www.fmu.ac.jp/boyoin/new/pdf/nipit-hp.pdf>) ならぬ「遺伝カウンセリング」が必須です。